



AGC 株式会社

ESG 説明会

2024 年 9 月 11 日

イベント概要

[企業名] AGC 株式会社

[企業 ID] 5201

[イベント言語] JPN

[イベント名] ESG 説明会

[日程] 2024 年 9 月 11 日

[時間] 16:00 – 16:50

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 2 名
執行役員 経営企画本部 サステナビリティ推進部長
玉城 和美 （以下、玉城）
広報・IR 部長
小川 知香子（以下、小川）

登壇

小川：ただ今より AGC 株式会社、ESG 説明会を開始いたします。本日司会を務めます、広報・IR 部の小川でございます。よろしくお願いいたします。

本日の出席者をご紹介します。経営企画本部サステナビリティ推進部長、玉城和美でございます。

はじめに玉城より、サステナビリティ経営の推進に関してご説明し、その後、質疑応答とさせていただきます。終了は 17 時ちょうどを予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは玉城さん、お願いいたします。

目次



1. 長期経営戦略「2030年のありたい姿」	P.3
2. 3つの社会的価値の創出	P.5
3. Blue planet ~持続可能な地球環境の実現~	■ 気候変動問題への対応 P.7 ■ 資源の有効利用 P.25
4. 「3つの社会的価値の創出」の実効性を高める取り組み	P.33
付属資料	P.40

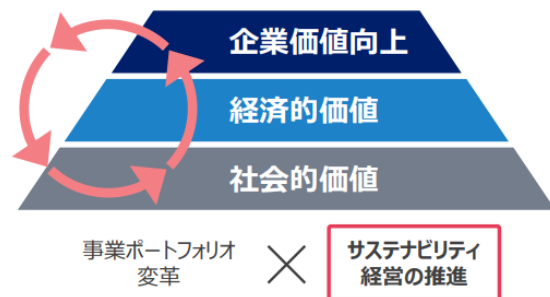
玉城：AGC の玉城と申します。よろしくお願いいたします。本日は AGC グループのサステナビリティ経営について、ここにお示ししましたとおり、長期経営戦略、私たちが創出する社会的価値、その中から Blue planet、社会的価値創出の実効性を高める取り組みをご紹介します。

- AGCグループは、「社会的価値の創出」を通じ経済的価値を創出し、企業価値を向上

長期経営戦略

2030年のありたい姿

独自の素材・ソリューションの提供を通じて
サステナブルな社会の実現に貢献するとともに
継続的に成長・進化する
エクセレントカンパニーでありたい

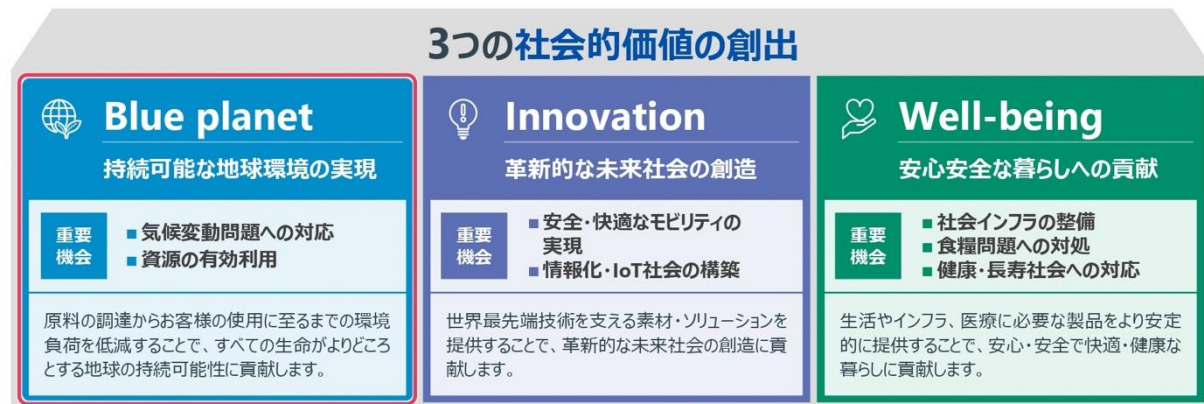


まず、AGC グループの長期経営戦略、2030 年のありたい姿についてです。AGC グループは、2030 年のありたい姿として、独自の素材・ソリューションの提供を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献するとともに、継続的に成長・進化するエクセレントカンパニーでありたいと考えています。

AGC グループは、事業ポートフォリオ変革とサステナビリティ経営を進める中で、社会的価値を創出することを通じて、経済的価値を獲得し、企業価値を向上させ、さらに再投資する。このスパイラルを回すことで、2030 年のありたい姿に近づけていきたいと考えています。

3つの社会的価値の創出

- 新中期経営計画 **AGC plus-2026** の始動に合わせ、AGCグループが提供したい社会的価値を「Blue planet」「Innovation」「Well-being」の3つに再定義



三つの社会的価値の創出についてです。今年スタートした中期経営計画、AGC plus-2026 では、AGC グループが製品や技術で世の中に提供していきたい社会的価値を三つに定義しました。

Blue planet、持続可能な地球環境の実現。Innovation、革新的な未来社会の創造。Well-being、安心安全な暮らしへの貢献。本日はこの三つのうち、Blue planet、原料の調達からお客様の使用に至るまでの環境負荷を低減することで、全ての生命がよりどころとする地球の持続可能性に貢献する、私たちの取り組みを中心にご紹介いたします。

▲ リスクに対応 カarbon・ネットゼロ目標（2050年）

- 2021年に中長期のGHG削減目標を策定し、着実に推進



*2030年の電力CO₂排出係数はIEAが公表した持続可能な開発シナリオ（SDS）を踏まえて設定した数値を用いています。

©AGC Inc.

8

Blue planet、持続可能な地球環境の実現。まずは、気候変動問題への対応からご説明いたします。

当社は 2050 年にカーボン・ネットゼロを目指し、そのマイルストーンとして 2030 年に GHG 排出量、Scope1+2、それから Scope3 を 19 年比 30%削減し、また Scope1 と 2 の売上高原単位を 19 年比 50%削減する目標を設定いたしました。

▲ リスクに対応 GHG排出量削減 実績（Scope1+2）

- 2023年実績は19年比14%削減と、2030年マイルストーンに対しほぼ計画通りに進行
- マイルストーン達成に向け、ガラス溶解プロセスの技術革新・クロールアルカリ事業の電力源の再生可能エネルギーへの転換・自家火力発電でのバイオマス燃料活用等に取り組む



©AGC Inc.

9

Scope1+2 の 2023 年実績は、19 年比 14%減、売上高原単位は 34%減となり、計画どおりに削減が進んでおります。最も削減に貢献したのは事業ポートフォリオ変革によるもので、再生可能エネルギーへの転換や、省エネ施策による効果も寄与しております。

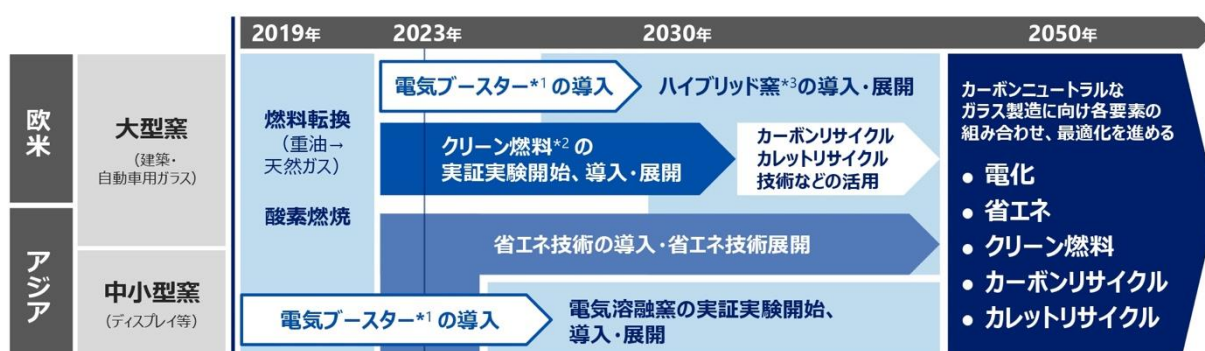
2030 年のマイルストーンの達成に向けて、ガラス溶解プロセスの技術革新、クロールアルカリ事業における電力源の再生可能エネルギーへの転換、自家発電設備でのバイオマス燃料の活用などに取り組んでいきます。

▲ リスクに対応

フロートガラス溶解窯におけるGHG排出量削減技術ロードマップ

AGC
Your Dreams, Our Challenge

- ～2023年：燃料転換、電気ブースター導入、クリーン燃料実証実験、カーボンリサイクル、カレットリサイクルの開発が進展
- ～2030年：地域特性に即して優先施策を実施（欧米：電化、アジア：省エネ）
- ～2050年：電化を中心に複数の技術を組み合わせる



*1: 通電補助加熱 *2: アンモニア、水素など *3: 熱源を電力と燃料の組み合わせで賄う

©AGC Inc.

10

Scope1+2 の GHG 排出量の 4 割を占めるフロートガラス溶解窯での削減については、技術ロードマップを置いてあります。これまで重油から天然ガスへの燃料転換、電気ブースターの導入、クリーン燃料導入の実証実験や、カレットリサイクルの拡大検討などに取り組んできました。

2030 年までの中期的な取り組みとしては、電力の GHG 排出計数がほかの地域に比べて低い欧米では、電化を積極的に進めていきます。日本を含むアジアでは省エネ策を加速させます。長期的には電化を中心として、クリーン燃料の利用、カレットリサイクルや排出するカーボンのリサイクルなどを組み合わせる計画です。

- 事業を横断したCTO直轄プロジェクトで、
「フLOATガラス溶解窯のGHG排出量削減技術実装戦略」を策定中

取り組み・検討内容

2050年までの各国エネルギー価格、
炭素コストなどの将来コストシミュレーション

要素技術における量産化の
経済合理性検証・優先順位付け

グローバルでの技術展開・リソース配分など、
グループ最適の技術実装戦略を策定



©AGC Inc.

11

この具体的な内容は、事業を横断した CTO 直轄プロジェクトの中で実装戦略を練っている最中です。建築用、自動車用、ディスプレイ用のフLOATガラス溶解窯の燃料転換や原料溶解方式の検討、設備仕様などの技術検証、各国のエネルギー価格や炭素コストなどの経済コスト、カレット利用時の技術、調達視点での課題、お客様からの要請動向など様々な要素を考慮し、AGC グループにとって最適な技術実装戦略を策定していきます。

進捗事例：

フLOATガラス溶解窯におけるクリーン燃料への転換

- クリーン燃料（アンモニア・水素）の実証実験に成功

2023年

実生産炉で世界初
実証試験に成功

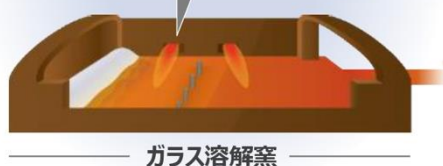
鉄鋼やアルミなど他素材の製造プロセスへの展開も視野に、幅広い素材産業の脱炭素化への貢献を目指す



アンモニア

水素

を使用した溶解



2023年

実生産炉での
実証試験に成功

燃焼能力をスケールアップした試験や、海外拠点での実証試験も検討、本格導入を目指す



©AGC Inc.

12

技術検証の一つとして取り組んでいるのが、クリーン燃料への転換です。2023年にはガラス溶解窯での燃料として、アンモニアや水素を利用する実証実験を実施し、成功させました。

進捗事例：
サンゴバン社との共同開発により、業界の脱炭素化に貢献



- 製造プロセスのGHG排出量削減に向け、ガラス大手サンゴバン社（仏）と共同開発
 - 実証実験を2024年下期に開始
 - 欧州連合のイノベーション基金から資金提供



**実証実験
内容**

- 天然ガスの空気燃焼 ⇒ 電気溶融**50%**+天然ガスの酸素燃焼**50%**
 - リサイクルカレット*率 ⇒ 最大**100%**に
- ⇒従来設計の窯に比べ、Scope1と3の排出量はそれぞれ75%削減

*カレット：ガラス屑

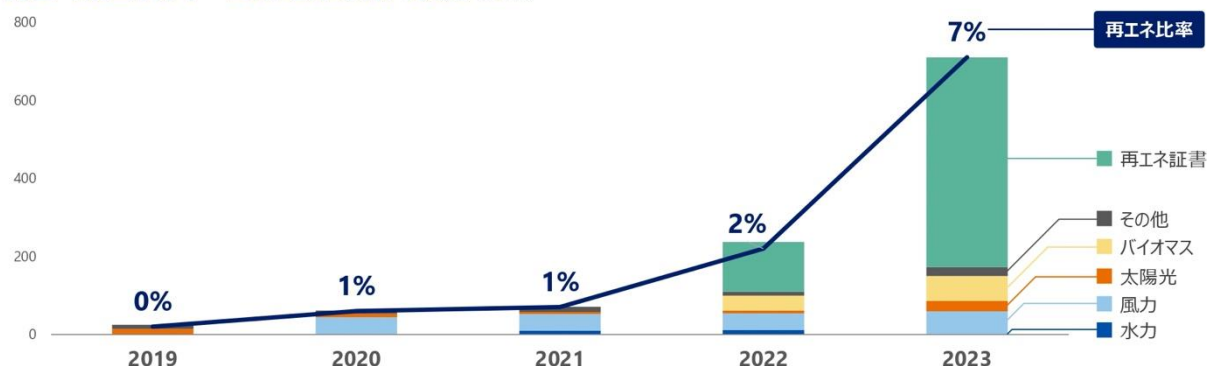
©AGC Inc.

13

またサンゴバン社と協働して、ガラス製造プロセスでの脱炭素化に向けた共同開発も開始しました。これは欧州連合のイノベーション基金から、資金提供を受けて行っているものです。空気燃焼から酸素燃焼方式へ、電気溶融の50%導入、原料としてガラスカレットを最大100%使用する実証実験です。この実証実験ではScope1とScope3のそれぞれの排出量を75%削減できると試算しています。

- インドネシア（アサヒマス・ケミカル社）での証書購入拡大により大幅に進捗
- その他拠点においてもPPA導入や証書購入等により推進、今後更に拡大

再生可能エネルギー由来電力の導入状況 (GWh)



*購入している電力のうち、再生エネルギーメニュー以外の通常メニューの電源構成に含まれるものは除外

©AGC Inc.

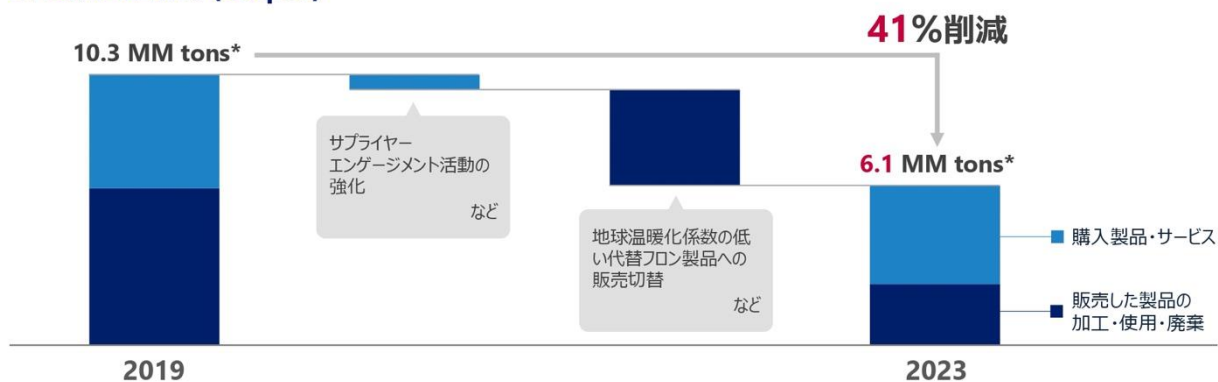
14

続きまして、再生可能エネルギー由来電力の導入状況です。2023 年は化学品事業のインドネシア拠点で、再エネ証書の購入を拡大したことにより、再エネ導入率が前年に比べて大幅に拡大しました。電力使用量の 7%に匹敵します。

そのほかの拠点でも、PPA の導入や証書購入を増やしていく計画です。

- サプライヤーエンゲージメント活動の強化や、地球温暖化係数の低い代替フロン製品への販売切替などにより削減

GHG排出量削減 (Scope3)



*Scope 3排出量のうち、カテゴリ1、10、11、12の合計

©AGC Inc.

15

続いて、Scope3 の GHG 排出の状況です。地球温暖化係数の低い代替フロン製品への販売切替えや、サプライヤーエンゲージメント活動によって、2023 年は 19 年比 41%削減することができました。

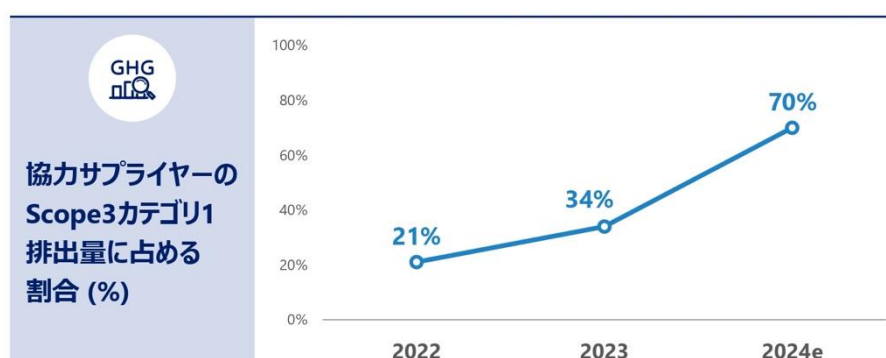
2030 年までには売上高増による Scope3 の増加も予想されますが、19 年比 30%削減の目標達成は可能だと見ております。

▲ リスクに対応

サプライヤーエンゲージメント活動の強化

AGC
Your Dreams, Our Challenge

- 主要サプライヤー各社と協力し、欧州では2030年までの削減計画を策定
日本・アジアでも策定中
- 原材料の排出量原単位として、産業平均値ではなく各社の値を用いることを検討中



©AGC Inc.

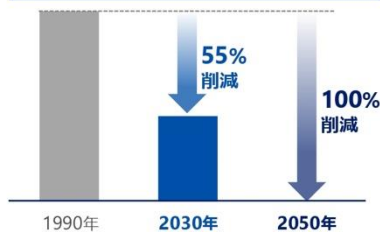
16

この Scope3 の削減を進めるため、サプライヤーエンゲージメント活動も年々強化してきました。Scope3 のカテゴリ 1、購入した製品、サービスの排出量に占めるご協力いただくサプライヤーの割合を、70%まで拡大させる計画です。

当社欧州での Scope3 の削減計画は既に策定済みで、日本、アジアでも策定段階にあります。サプライヤー各社様との対話で用いる排出量原単位は、産業平均ではなく、個社の状況に合わせてきめ細かく対話しながら活動を行う予定であります。

- 欧州委員会は、2030年までに欧州のGHG排出量を55%削減する目標を発表^{*1}
(2022年時点では32%削減)
- GHG排出量のうち、建築物からの排出が約36%^{*2}
- 建築物のエネルギー消費効率、断熱性の向上が重要

欧州GHG排出量削減目標^{*1}

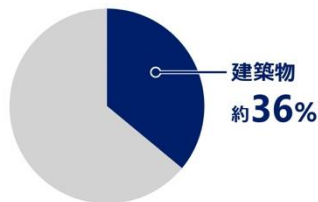


^{*1} 欧州委員会「グリーン・ディール」、「リノベーション・ウェーブ戦略」

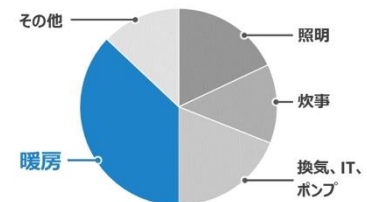
^{*2} EC, EU Energy Figures – “Statistical Pocket Book 2021” and “Glazing Potential – Energy Savings & CO₂ Emission Reduction, Glass for Europe”

^{*3} Based on section “2.5.3 Final Energy Consumption BY SECTOR” in file “EU energy in figures - Statistical pocketbook 2021”

GHG排出量割合^{*2}



建物のエネルギー消費内訳^{*3}

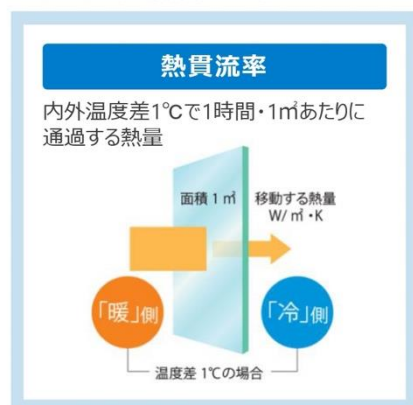


ここからは、AGC グループの製品をご使用いただく場面で、環境負荷低減に貢献できるものについてご紹介していきます。

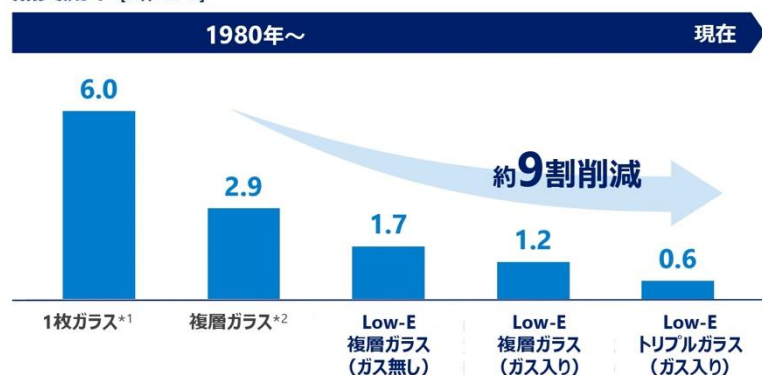
欧州委員会は 2030 年までに、欧州の GHG 排出を 1990 年比、少なくとも 55%削減する目標を設定しています。GHG 排出量のうち約 36%が建築物からの排出であり、建築物のエネルギー消費効率、断熱性の向上が非常に重要となります。

- AGCの高機能窓ガラス製品は、建物のGHG排出量削減に貢献

窓ガラスの断熱性能の進化



熱貫流率 [W/㎡・K]



^{*1} 3mmのフロートガラス ^{*2} 中空層12mmの透明複層ガラス

建築物の冷暖房効率を上げるために、AGC グループでは高機能窓ガラスを長年にわたって開発、販売してきました。これは GHG 排出量削減に貢献するものです。最も断熱性能の高い Low-E トリプルガラスは、1 枚のガラスに比較して、移動する熱量を 9 割削減することができます。

🔗 機会を生かす

高機能窓ガラス需要の拡大

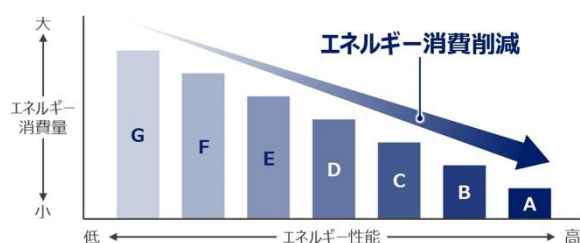
AGC
Your Dreams, Our Challenge

欧州

建物のエネルギー性能評価制度のもと
低効率建物の一部が改修義務化*¹。
改修への補助金給付・金利優遇を実施



建築物のエネルギー性能評価制度



日本

省エネ性能表示が努力義務化*²。
「先進的窓リノベ補助金」が2024年も
予算拡大の上継続

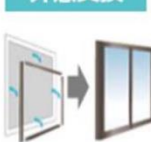
補助対象

窓のリフォーム工事

内窓設置



外窓交換



ガラス交換



補正予算

2023年: 1,000億円、2024年: 1,350億円

*1: 建物エネルギー性能指令 (EPBD) *2: 省エネ性能表示制度

©AGC Inc.

19

欧州では建築物のエネルギー性能評価制度のもとで、エネルギー効率の悪い建物に改修義務が課されたり、改修への補助金給付や金利優遇策が実施されております。日本では、省エネ性能表示が努力義務になりました。先進的窓リノベ補助金として、2023 年度は 1,000 億円の補正予算が充てられ、今年 24 年度は 1,350 億円に拡大されて、継続実施されています。

欧州の GHG 排出削減目標も道半ばの状況であることや、各国政府が GHG 排出削減を推進していることを考慮すると、今後も高機能窓ガラスの需要は堅調であると予想しております。

- 都市部における太陽光パネル設置場所の確保が課題
- 窓で創エネ可能な**建材一体型太陽光発電ガラス**で、設置場所の制約解消に貢献
- 創エネ性能と意匠性を両立し、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献

建材一体型太陽光発電ガラス



産総研ゼロエミッション
国際共同研究センター
エントランスキャノピー



シンガポール
工科大学ブノル
新キャンパス

©AGC Inc. 20

また、再生可能エネルギーとしての太陽光発電が拡大しておりますが、都市部での太陽光発電パネルの設置場所の確保が課題となりつつあります。窓などで発電できる建材一体型太陽光発電ガラスが、設置場所の制約解消に貢献すると考えております。

- カーボン・ネットゼロ社会に向けたEV・FCV市場拡大とともに付加価値の高い**自動車用ガラス**の需要が増加

パノラマ・サンルーフ
需要予測
(当社推定)

24e 25e 26e 27e 28e 29e 30e

Low-eガラス

高い遮熱・断熱性で、
エアコン負荷を低減し燃費向上
快適性向上に加え、EVの航続距離延長、CO₂排出削減にも貢献

調光ガラス

EV化で需要拡大するパノラマサンルーフに、
新たな価値を提供
**快適性・開放感を更に向上、
先進的な車内空間を実現**

遮音ガラス

フロントに加え、サイドガラスも合わせガラス化
することで、遮音性を更に向上
**エンジン音から解放されるEVで、
静かで快適な車内空間を実現**

©AGC Inc. 21

建築物だけでなく自動車分野でも、高機能ガラスが環境負荷低減に貢献するものと予測しています。電気自動車 EV や、燃料電池車 FCV の市場拡大とともに、エアコン負荷を低減し、燃費向上と GHG 排出量を削減する Low-E ガラスの搭載も増える見込みです。

これは環境面だけでなく、乗車時の快適性も上がります。調光ガラス、パノラマサンルーフは快適性と解放感ある車内空間の実現に。静かで快適な車内空間をもたらす、遮音ガラスの搭載なども増えると見ております。

🔗 機会を生かす

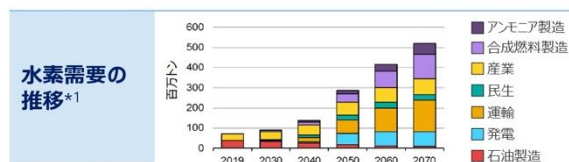
水素関連市場の拡大

AGC
Your Dreams, Our Challenge

- 水素市場拡大に伴う製品の高機能化により、素材に対する要求スペックが高度化
- 長年培ったフッ素技術により新製品・技術を開発し、ニーズに対応

水電解用フッ素系イオン交換膜

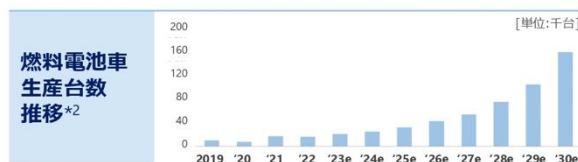
燃料電池向け電解質技術と
クロール電解向けイオン交換膜技術を集結
⇒ **世界トップの高効率・安全性能を
もつ水電解向けの電解質膜を
供給**



水素関連：アンモニア、メタネーション等を通じた合成燃料を含む

燃料電池用フッ素系電解質ポリマー

差別化された技術力で実現した
高発電性能と耐久性を両立
⇒ **圧倒的No.1ポジションを確立**

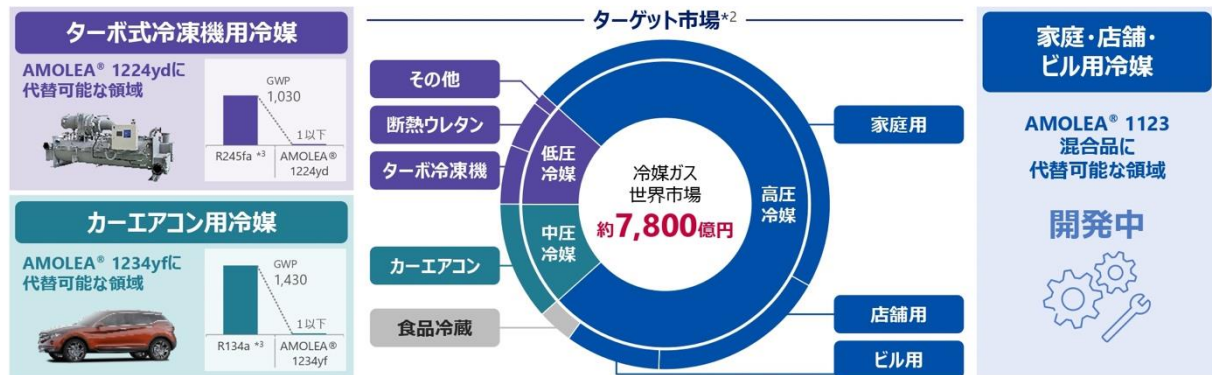


*1: 経済産業省 今後の水素政策の課題と対応の方向性 (2021) *2: S&P Globalデータを元に作成

©AGC Inc. 22

燃料電池車も含め、水素の需要拡大に関連した製造機器、設備の拡大も予想されます。燃料電池向けで圧倒的ナンバーワンポジションを確立している、電解質ポリマー製造で培った技術や、クロールアルカリ電解向けのイオン交換膜技術を集結して、世界トップの効率性、安全性能の高い水電解向けフッ素系イオン交換膜の供給を拡大していきます。この増産のために、2026年6月の稼働を目指して、北九州事業所で設備の新設を今年1月に決定いたしました。

- カーボン・ネットゼロ社会に向け、25年以降、既存冷媒から地球温暖化係数(GWP^{*1})の小さい環境対応型次世代新冷媒・溶剤への転換が加速
- 低GWP冷媒市場は30年頃に22年の約2.2倍に拡大見込み^{*4}



*1: GWP(Global Warming Potential)とはCO₂の何倍の温室効果があるかを表す係数 *2: 2020年当社推定 *3: 既存品 *4: TCFDシナリオ分析による

©AGC Inc.

23

エアコンや冷凍機器に使用される冷媒や溶剤の、環境対応型製品の市場拡大も見込まれます。当社では地球温暖化係数 GWP が、従来品に比べて 1,000 分の 1 以下のターボ式冷凍機用冷媒、1,400 分の 1 以下のカーエアコン用新冷媒を開発して、従来品からの販売切替えを進めています。

その効果として、当社の GHG 排出、Scope3 が減少していることは、先ほどもご紹介いたしました。こういった GWP の小さい冷媒市場は、2030 年頃には 22 年の約 2.2 倍に拡大すると試算しています。家庭用や店舗、ビル、空調用の冷媒も現在開発中です。

気候変動対応全体への今後の投資計画

- 気候変動対応に向け、2024-2026年までの3年間で800億円以上を投資

気候変動対応に関連する累計投資額（計画）



こういった気候変動に対応するため、2024年から2026年までの3年間で、GHG排出削減に貢献する製品の拡販のために300億円以上、自社での排出削減を目的として500億円以上、合計800億円以上を投じる計画です。気候変動に関する機会獲得とリスク低減の両面から、しっかりと取り組んでいきます。

▲ リスクに対応

資源の有効利用

- 再生資源の活用を進め、天然資源由来原料の使用率節減を推進
- 事業の全フェーズでの資源循環の構築を目指す

グループ目標

- 埋立処分率：1%未満
- 資源投入量の削減
- 資源の再（生）利用率向上
- 非化石由来材料の導入



続いて、資源の有効利用についてご紹介します。再生資源の活用を進め、天然資源由来の原料、言い換えれば自然資本の使用を節約、減らす努力もしております。製品設計や製造プロセスの設計から、原材料調達、製造、製品の使用、回収、リサイクルまで、全フェーズでの資源循環の仕組みを整えていきます。

カレット（ガラス屑）リサイクル



- 埋立処分される廃ガラスを、カレット（ガラス屑）原料としてリサイクル
- カレットリサイクルは、**天然資源使用量低減**および**Scope1~3のGHG排出量削減の両方に寄与**

1トンのカレットリサイクル = バージン原料 約1.2トンの節減、GHG排出量 0.5~0.7トン（CO₂換算）の削減



©AGC Inc.

27

まずは、カレットリサイクルについてです。使用済みガラスが廃棄された後は、埋立処分されることがほとんどです。埋立処分するのではなく原料としてリサイクルすること、リサイクル率を上げることを目指して、活動を進めています。

ガラスカレットはバージン原料、天然原料よりも溶けやすいため、バージン原料の代わりにカレットを使用すると、製造時の原料溶解エネルギーを抑えることができます。これは当社の Scope1 と 2 の削減につながります。

カレット 1 トンは天然原料、バージン原料を約 1.2 トン減らすことになります。また、資源の採掘や精製、輸送時に発生する GHG 排出、つまり Scope3 の発生も抑えられ、Scope1 から 3 まで合計すると、1 トンのカレットリサイクルによって GHG 排出を 0.5 から 0.7 トン削減することになります。

カレットリサイクルを進めることは、GHG 排出の削減、自然資本の保全、廃棄物の削減、埋立処分場の延命など、多方面で社会的意義のある取り組みです。

⇒バージン原料（天然原料）とする。もしくは（天然原料）を消す。

進捗事例： カレットリサイクル（建築ガラス）

- 大手ゼネコンなど多様なビジネスパートナーと連携し、これまで実現が難しいとされてきた「ビル解体で発生する廃ガラスのリサイクル」を推進
- コンビニエンスストア店舗ガラスのリサイクルにも成功

欧州事例

- ブリュッセルの大型ビルから廃ガラス130トン回収
⇒ AGCでリサイクルし、Low-カーボンガラスとして再利用予定



日本事例

- セブン-イレブンと協業し廃棚板ガラス4トン回収
⇒ 原料カレットへのリサイクルに成功（2024年日本初）
今後は店舗ガラスへのリサイクルに展開予定



AGC グループでは、製造工場内で発生するカレットリサイクルには、長年取り組んできました。窓ガラスなどの製品として利用された後のリサイクルには、少しずつですが取り組みも進み始めています。複数の大手ゼネコンなど、多様なビジネスパートナーと連携して、ビルの解体時に発生する廃棄ガラスのリサイクル実験も始めています。

ブリュッセルでは大型ビルから 130 トンの廃棄ガラスを回収して、ローカーボングラスとして再利用する予定です。

最近ではセブン-イレブン様と協業して、店舗で使用されていた廃棄棚板ガラスを回収して、新たな板ガラス製品に再生した後に、またセブン-イレブン様の店舗でご使用いただく資源循環に成功いたしました。今後も、このような資源循環を展開する予定です。

進捗事例： カレットリサイクル（太陽光パネルカバーガラス）

- 2030年代後半に年間数十万トンの太陽光パネル廃棄が想定*され、カバーガラスのリサイクルが重要課題
- 回収カバーガラスを原料としたフロート板ガラス製造の実証試験に成功（2023年日本初）、型板ガラス製造の原料として使用開始予定（2024年末以降）



太陽光パネルカバーガラスのリサイクル工程（一例）

*NEDOデータより、日本市場における想定量

©AGC Inc.

29

2030 年代後半になると大量廃棄が予想される、太陽光パネルのリサイクルも重要な課題です。パネル部材を分離して素材を選別し、カバーガラスもリサイクルして、フロート板ガラスに再生する実証実験にも成功しております。

進捗事例： フッ素製品リサイクル

- 1997年にフルオロカーボン類のリサイクルを開始して以来、使用済みフッ素製品を回収し、原材料として再利用。
- 半導体製造に使用されるフッ素樹脂など、リサイクル対象の製品・分野の更なる拡大を目指す。



©AGC Inc.

30

ガラスだけではなく、フッ素製品のリサイクルについてもご紹介します。AGC グループでは 1997 年からフルオロカーボン類を回収して、破壊プロセスを経て得られたフッ化カルシウムを原料として再利用する、ケミカルリサイクルに取り組んでいます。

今後は半導体製造に使用されるフッ素樹脂など対象分野を広げ、マテリアルリサイクルにも取り組んでいきたいと考えております。

「資源の有効利用」に貢献する製品の例



長寿命

30年以上取り換え不要な、施設園芸用フッ素樹脂フィルム

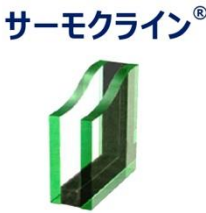
- 通常品（耐用年数3~5年）に比べ長持ち
- 廃プラスチックの排出も抑制



リサイクルしやすい

リサイクル容易な複層ガラス

- 水平リサイクルができるよう、簡便に分解が可能
- 長寿命化により、ライフサイクルを通してのCO2削減にも貢献



廃棄物削減

後付け可能な、リノベーション用ガラス

- 既存ガラス・サッシの廃棄を発生させず、窓の高機能化が可能



植物由来

100%バイオベースのエピクロロヒドリン

- 資源の新規採掘を抑えるのに加え、化石由来製品に比べGHG排出量が最大67%低い



資源を有効に利用し、GHG 排出削減にも貢献する製品例を、ここに示しました。長寿命、廃棄物削減、リサイクルのしやすさ、植物由来の副産物の利用といった観点での製品拡販に取り組んでいます。

環境・エネルギー分野に貢献する製品 売上高・営業利益

- 環境・エネルギー分野に貢献する製品の売上高はグループ全体の約 1 割
- 今後も市場拡大の機会を捉えながら、AGCグループの技術力を生かし、更なるGHG排出量削減への貢献と事業成長を目指す



*共通費配賦前ベース

©AGC Inc.

32

環境やエネルギー分野に貢献する製品の売上高は、2023 年、グループ全体の売上高の 1 割強、2,260 億円、営業利益は約 170 億円になりました。今後も市場拡大の機会を捉えて、26 年には売上高で 2,890 億円、営業利益 380 億円を目指します。

AGCグループの価値創出スパイラル

- AGCグループは、「社会的価値の創出」を通じ経済的価値を創出し、企業価値を向上



©AGC Inc.

34

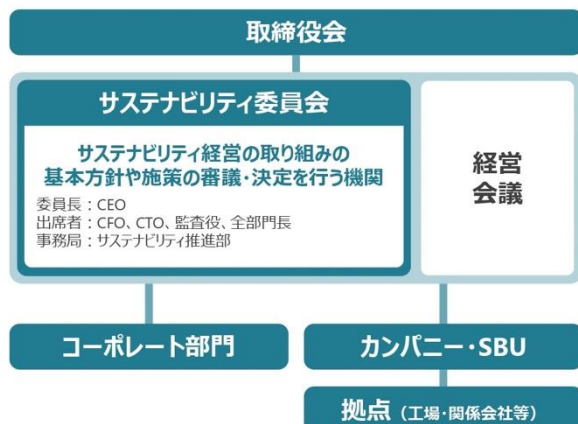
最後に、三つの社会的価値の創出の実効性を高める取り組みについて、ご説明いたします。

本日冒頭でご説明しましたとおり、AGC グループは三つの社会的価値の創出を通じて、経済的価値を追求し企業価値を向上させていく、価値創出のスパイラルを回していきます。

サステナビリティ委員会



- 経営会議と同等の位置づけ
- 年4回開催、年2回取締役会に報告



サステナビリティ委員会の議題（2023年、例）

議題の例

- インターナルカーボンプライシング制度運用レビュー
- GHG排出量削減
Scope1、2、3 削減ロードマップ
排出量削減実績
- 人権課題への取組
顕著な人権課題の特定、人権方針の制定
サプライチェーン人権デューデリジェンス
- 労働者の安全に関わる事項
- 従業員エンゲージメント調査、向上

この社会的価値創出の実効性を高めるために、経営会議と同等の位置づけとして、サステナビリティ委員会を置き、CXO と全部門長が出席する委員会を年に 4 回、開催しています。そして年に 2 回は、この活動内容を取締役会で報告し、都度アドバイスを頂いております。

2023 年には GHG 排出削減に関する事項、人権課題への取り組みなどについて議論いたしました。

環境対応会議

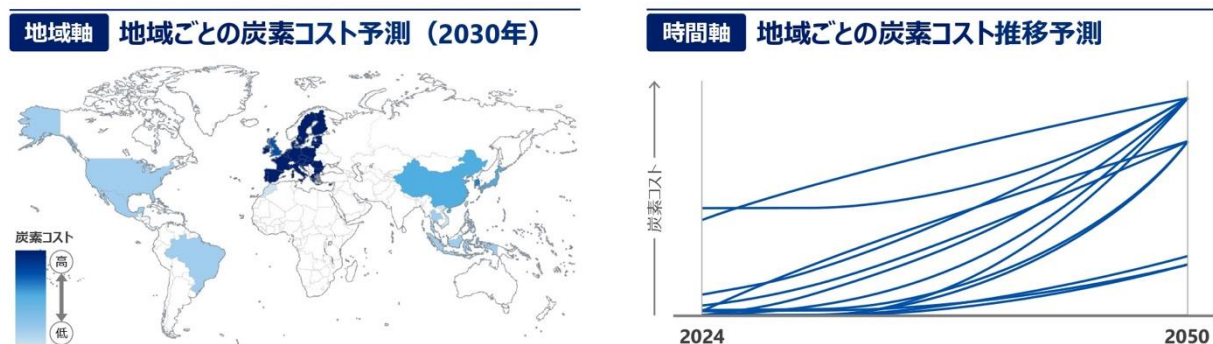
- GHG排出削減に限定せず、環境全般について議論すべく、24年に体制を刷新
- グローバルかつ事業横断的にテーマごとのプロジェクトを設置し、課題に対応



また、サステナビリティ委員会の傘下に環境対応会議を設置して、グローバル、かつ事業を横断して GHG 排出削減に限定せず、環境全般について議論できる体制も整えて、活動しています。

炭素コストを意識したGHG排出量削減戦略

- インターナルカーボンプライシング制度*の見直しを実施
 - 気候変動における炭素コストに各国・地域の政策状況を反映し、地域軸と時間軸で将来の炭素コストを算出
 - 社会的価値と経済的価値を考慮し、投資判断に生かす



*2022年よりグローバルに展開

2022 年から AGC グループとして、インターナルカーボンプライシング制度を導入しております。今年はじめに開催したサステナビリティ委員会では、この ICP 制度を見直すことにいたしました。

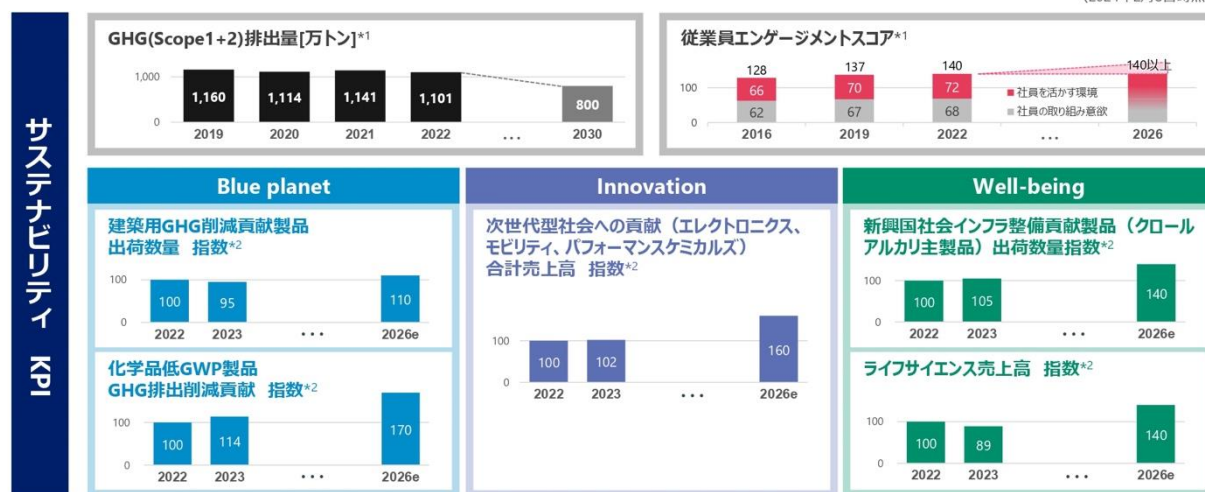
開始当時 2022 年は単一価格を設定しておりましたが、当社グループの進出地域ごとに時間軸も加えた予測値を、投資判断時の炭素コストとして設定することになりました。GHG 排出の抑制という社会的価値と、炭素コスト負担という経済的価値の両面を踏まえて、投資案件や投資タイミングの判断ができるようになります。

サステナビリティKPIの設定

AGC
Your Dreams, Our Challenge

■ サステナビリティKPIを設定し、持続的な成長をモニタリングしていく

(2024年2月8日時点)



*1: 役員報酬に反映されるKPI *2: 指数：2022年を100として2023年以降の数値を換算

©AGC Inc.

38

今年から始まった中期経営計画では、社会的価値の創出状況を確認するために、サステナビリティ KPI を設定いたしました。持続的な成長状況を確認するために、こういった指標でモニタリングしてまいります。

役員報酬制度への反映

- 新中期経営計画 **AGC plus-2026** を対象期間とする
役員株式報酬の非財務指標として、サステナビリティKPIを採用

分類	業績指標	選定理由	ウェイト
財務指標	ROE	長期及び中計期間の重要な業績目標	30%
	EBITDA	キャッシュの創出力及び収益性の向上を図る	30%
株価指標	相対TSR(対TOPIX)	株主との利益共有をより一層図る	20%
非財務指標	GHG排出量売上高原単位	持続可能な地球環境実現への貢献を目指す	10%
	従業員エンゲージメント	従業員一人ひとりの成長・能力発揮を通じて、会社の成長を目指す	10%

注1 相対TSR（対TOPIX）：TSRは、Total Shareholder Returnの略で、キャピタルゲインと配当を合わせた株主様にとっての総合投資利回り（株主総利回り）を指します。相対TSR（対TOPIX）は、対象期間における当社のTSRを、TOPIX構成銘柄の平均TSRと比較するものです。

注2 GHG排出量売上高原単位：GHG排出量売上高原単位は、当社グループが排出したGHG（温室効果ガス）の量を売上高で除した指標で、事業活動における炭素効率を示すものです。

また役員報酬の評価指標にサステナビリティ KPI の一部を非財務指標として反映しております。中期経営計画期間を対象として、中長期的な企業価値向上、中計達成のインセンティブとなる株式報酬の評価指標のうち、20%分を非財務指標、具体的には GHG 排出量売上高原単位と従業員エンゲージメントスコアを組み込みました。

サステナビリティ経営、社会的価値創出の実効性を高めるために、これまで紹介したような体制、そして役員報酬制度などを整備しております。

社会的責務を果たしながら、社会的価値ある製品を提供し続け、経済的価値を獲得し、そして企業価値向上のスパイラルを回し続けていけるよう、取り組んでまいります。

ご説明は以上となります。ありがとうございました。

[了]